

令和2年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

第6回 医療機関における医療安全および業務効率化に資する医薬品・医療機器の  
トレーサビリティ確立に向けた研究 班会議

議 事 次 第

日時：令和3年1月21日（木）午前10:00～12:00

場所：国立国際医療研究センター第一会議室／

Microsoft Teams による WEB 会議併用

1. NCGM での RFID を用いたトレーサビリティ実証
2. 各医療機関におけるバーコード利用、マスタ関連の整理について
  - ・ いただいた現状の整理と説明
  - ・ ディスカッション
3. 事務連絡

【配布資料】

資料1 委員名簿

資料2 バーコードを活用している HIS 機能・マスタ

令和2年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

第6回 医療機関における医療安全および業務効率化に資する医薬品・医療機器の  
トレーサビリティ確立に向けた研究

委員名簿

【研究班】（敬称略、氏名五十音順）

研究代表者

美代 賢吾

国立国際医療研究センター 医療情報基盤センター センター長

研究分担者

植村 康一

流通システム開発センター ソリューション第一部 部長

大原 信

筑波大学 医学医療系医療情報学 教授

折井 孝男

東日本電信電話株式会社関東病院 薬剤部 シニアファーマシスト

笠松 眞吾

福井大学 学術研究院医学系部門救急講座 特命助教

近藤 克幸

秋田大学 理事・総括副学長

高橋 弘充

東京医科歯科大学 医学部附属病院薬剤部 部長・特任教授

高本 真弥

国立国際医療研究センター 医療安全管理部門 部門長

武田 理宏

大阪大学 医療情報部 准教授

藤田 英雄

自治医科大学 附属さいたま医療センター 副センター長

前川 ふみ

流通システム開発センター コード管理部 コード登録管理グループ

管轄省庁

井高 貴之

厚生労働省医政局研究開発振興課 医療情報技術推進室 室長補佐

笹 琢磨

厚生労働省医政局研究開発振興課 医療情報技術推進室 主査

新谷 幸子

厚生労働省医政局経済課

滝澤 晃成

厚生労働省医政局経済課

令和2年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

第6回 医療機関における医療安全および業務効率化に資する医薬品・医療機器の  
トレーサビリティ確立に向けた研究

委員名簿

【オブザーバ】（敬称・役職名略、団体名五十音順）

日本医療機器産業連合会（医機連）	高田 耕一郎
日本医療機器テクノロジー協会（MTJAPAN）	原山 秀一
日本医療機器ネットワーク協会（@MD-Net）	田村 雄一郎
日本医療機器販売業協会（JAHID）	富木 隆夫
日本医療製品物流管理協議会（日本SPD協議会）	菊地 公明
	北浦 克俊
	大橋 太
日本自動認識システム協会（JAISA）	白石 裕雄
米国医療機器・IVD工業会（AMDD）	河合 誠雄
保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）	井上 貴宏
	新垣 淑仁
	友澤 洋史
	後藤 孝周

# NCGMでのRF-IDを用いた トレーサビリティ実証

美代賢吾（みよけんご）

国立高度専門医療研究センター（JH）

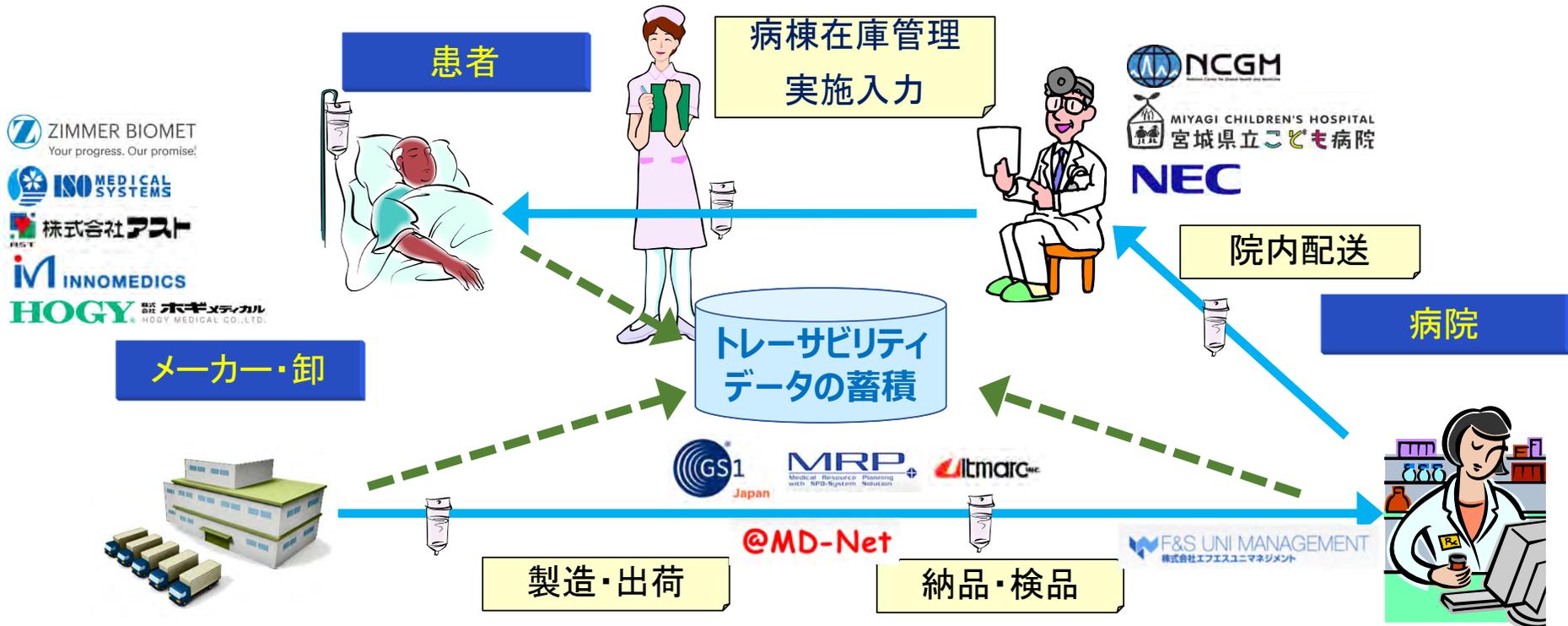
医療研究連携推進本部

国立国際医療研究センター（NCGM）

医療情報基盤センター



# トレーサビリティデータの蓄積による流通から消費までの把握

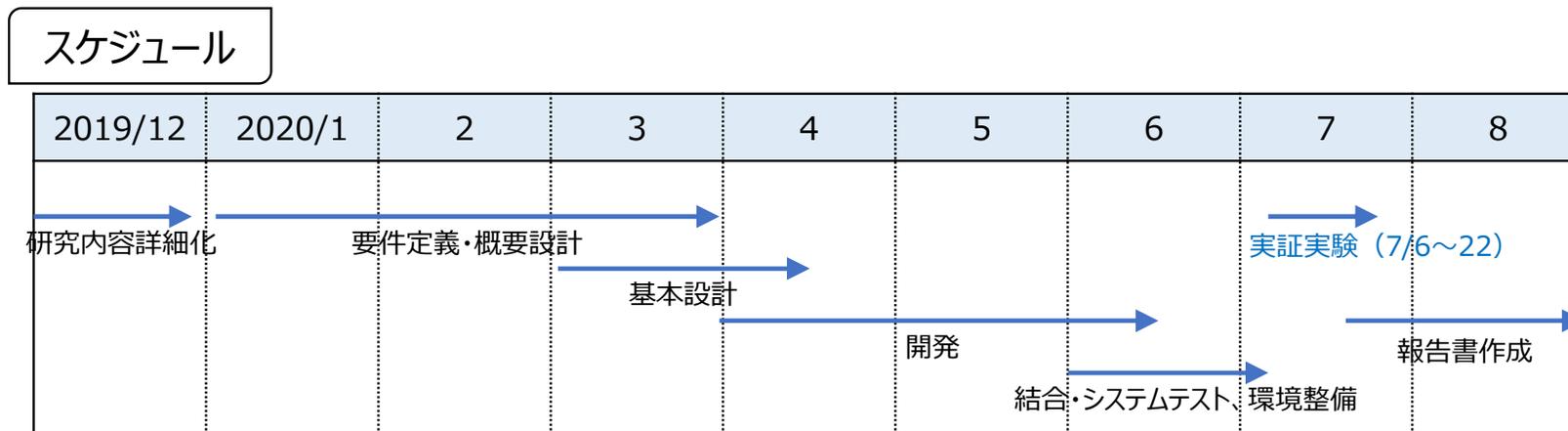
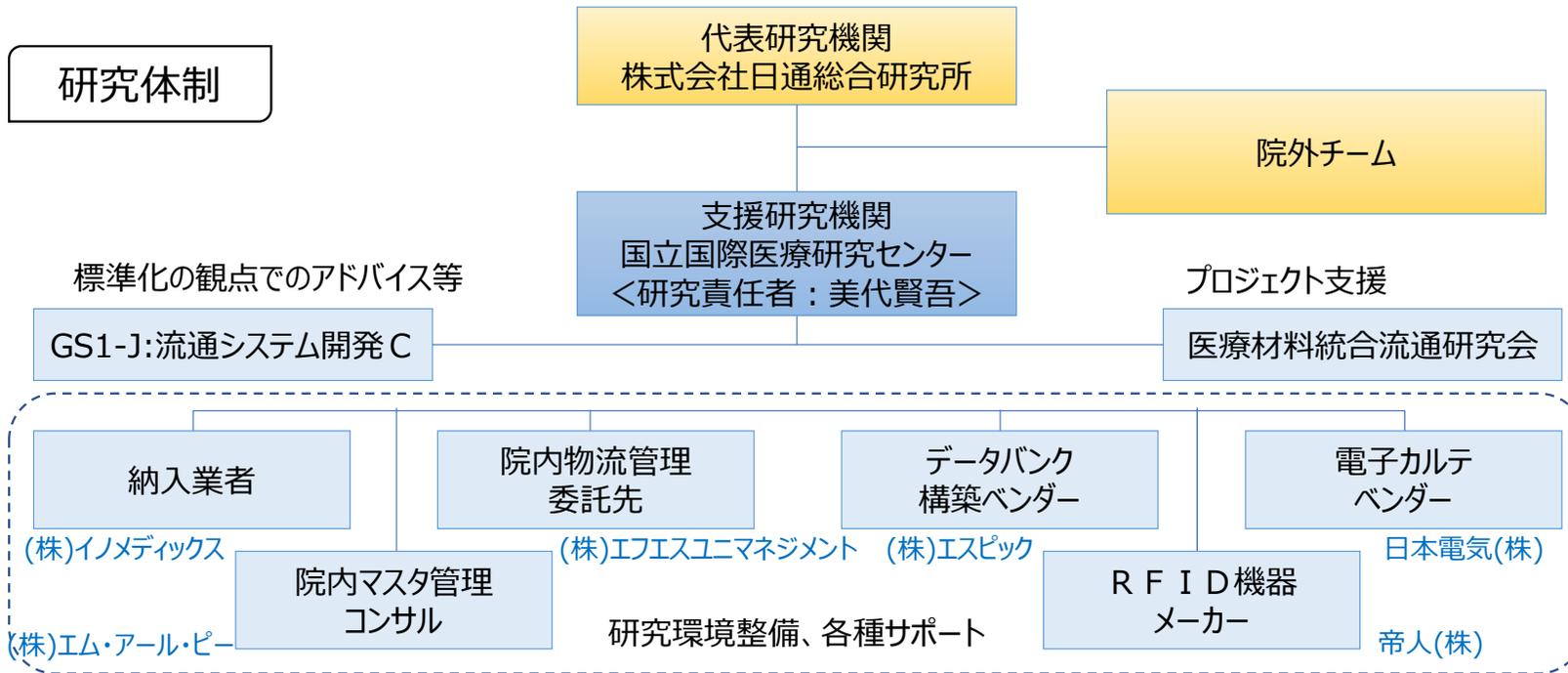


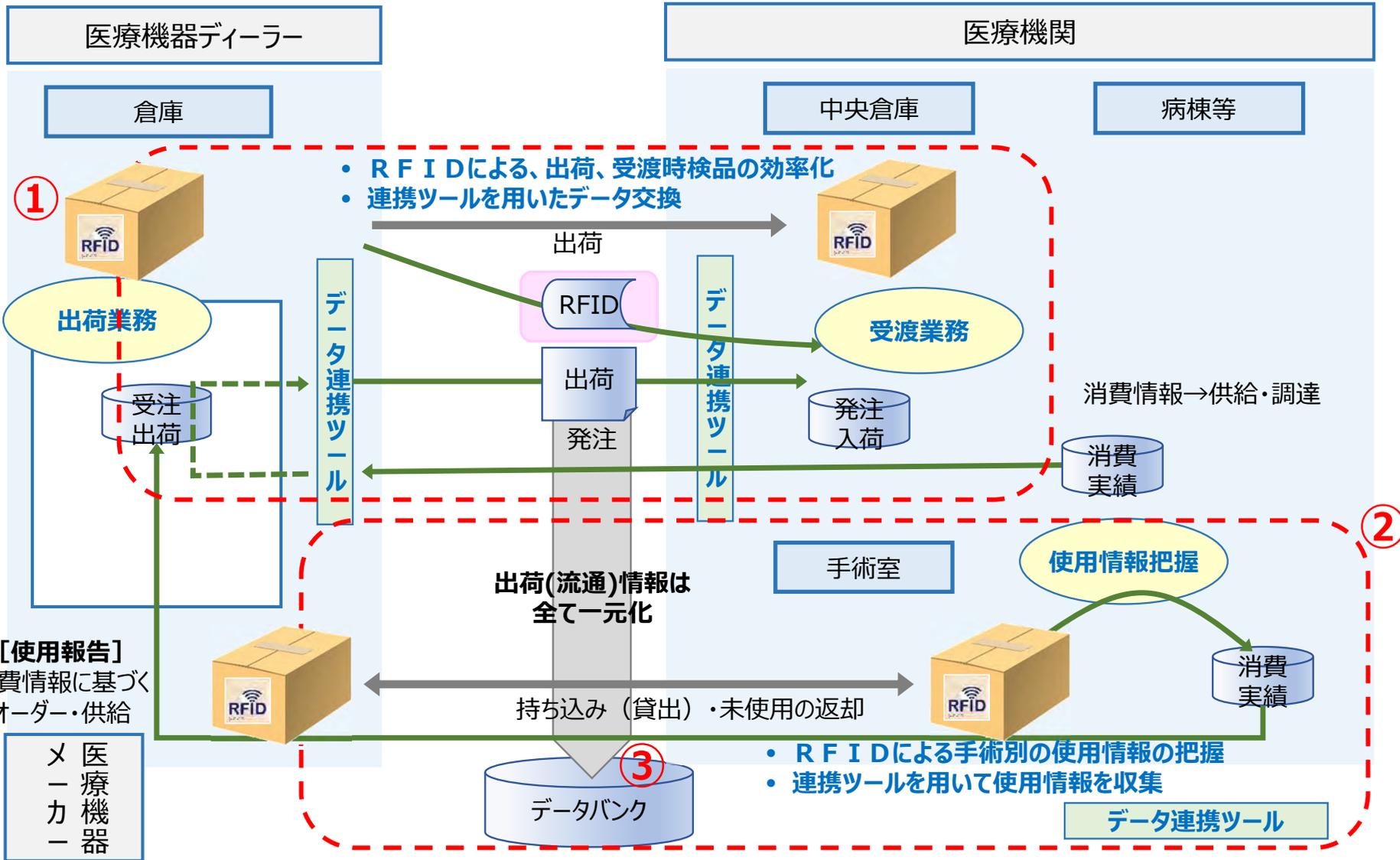
経済産業省産業データ共有促進事業 平成30.10 - 平成31.3  
 医療機器トレーサビリティデータバンク利活用実証事業

内閣府・戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) ・スマート物流サービス 令和1.11 - 令和2.8  
 プロトタイプ of データ基盤の構築および概念実証 [医薬品医療機器等]

厚生労働行政推進調査事業費 令和2.4 - 令和4.3

医薬品・医療機器のトレーサビリティ確立による医療安全および業務効率化の促進に係る施策に関する研究





# ① 買取品物流（背景）



## 1日の納品量

# 実証実験結果及び効果（作業時間）

【測定項目 b】

Before

当院に入荷した商品の検収準備(入荷検品)

トラックドライバー 2 名

Before

商品センター出荷時にRFID貼付による出荷検品 商品センターパート 2 名



## 実証実験結果及び効果（作業時間）

Before

納品書を元に目視による入荷検収 トラックドライバー 1名 SPD職員 1名

Before

ASNデータを元にRFID読取による入荷検収 SPD職員 1名



### RFID読取による入荷検収

## 実証実験結果及び効果（作業時間）

Before

納品書を元に目視による入荷検収 トラックドライバー 1名 SPD職員 1名

Before

ASNデータを元にRFID読取による入荷検収 SPD職員 1名

No.	日付	RFID タグ枚数	入荷検収/目視 (Before)		入荷検収/RFID (After)		Before-After	
			作業時間 2名	1枚あたり 作業時間	作業時間 1名	1枚あたり 作業時間	作業時間 2名	1枚あたり 作業時間
1	2020/7/14	550	72	7.9	18	2	54	5.9
2	2020/7/15	459	65	8.5	21	2.7	44	5.8
3	2020/7/16	508	46	5.4	18	2.1	28	3.3
4	2020/7/17	526	68	7.8	34	3.9	34	3.9
5	2020/7/20	773	56	4.3	25	1.9	31	2.4
合計		2816	307		116		191	
平均		563.2	61.4	6.5	23.2	2.5	38.2	4.1
			分	秒	分	秒	分	秒

**-61.5%**

# その他効果（費用）

## 2. 費用対効果

区分	内訳	Before	After	Before-After
初期投資	システム開発費	0	11,000,000	-11,000,000
	周辺機器	0	5,000,000	-5,000,000
	合計	0	16,000,000	-16,000,000
ランニング	タグ費用/日	0	12,000	-12,000
	人件費/日	13,667	4,188	9,479
	合計	13,667	16,188	-2,521

人件費では効果が見込めるものの、  
高額な初期投資及びRFIDタグ費用が課題

## ②手術室物流



# 手術室 実証の目的と実証内容

## 目的

- ① 「整形インプラント」の短期貸出品を対象とした、RFIDの活用による入荷検品及び返却検品作業における物流品質及び作業の効率化
- ② 手術実施記録業務の軽減化及び精度の向上
- ③ 手術実施データ（使用物品及び数量情報）の可視化及び精度の向上

\* ②、③はNEC社により検証

## 実証内容

- ① RFID一括読取による入荷・返却検品の実施
  - ・従来の目視入荷・目視返却検品との作業時間比較
- ② RFID一括読取による実施記録業務の実施
  - ・従来の実施記録業務との作業時間比較
- ③ 医事請求の為の補助伝票運用の実施
  - ・手術実施データ（使用物品及び数量情報）の可視化
  - ・情報伝達用一覧帳票作成業務時間の調査

## 手術室 実証の様子〈荷姿〉

一症例あたりの商品積載状況

【人工膝関節置換術（TKA）両側】  
コンテナ（75L）4ケース分に隙間なく積載されている



## 手術室 実証の様子 <入荷>

Before

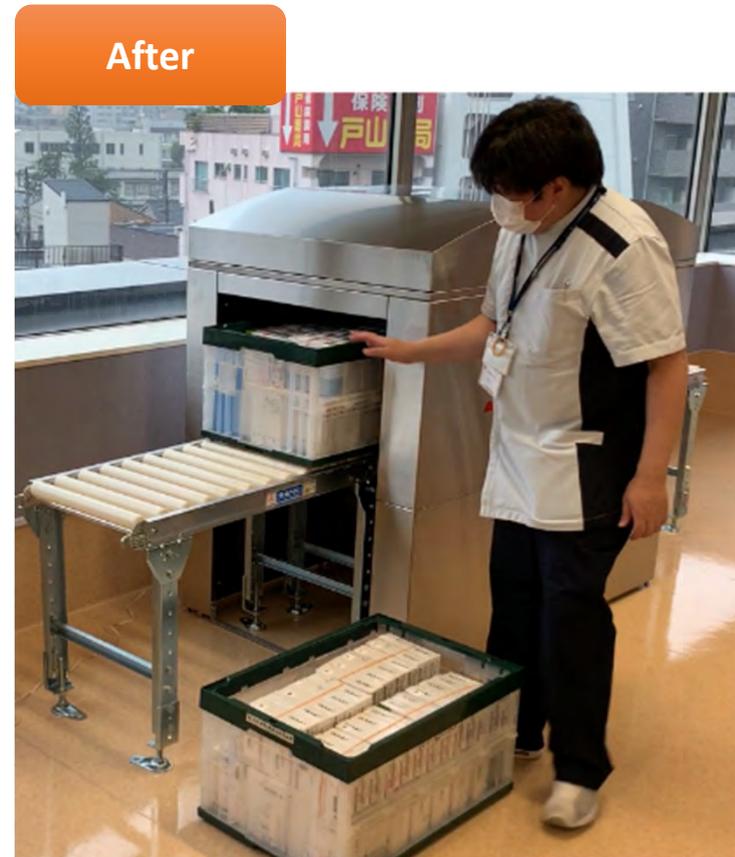
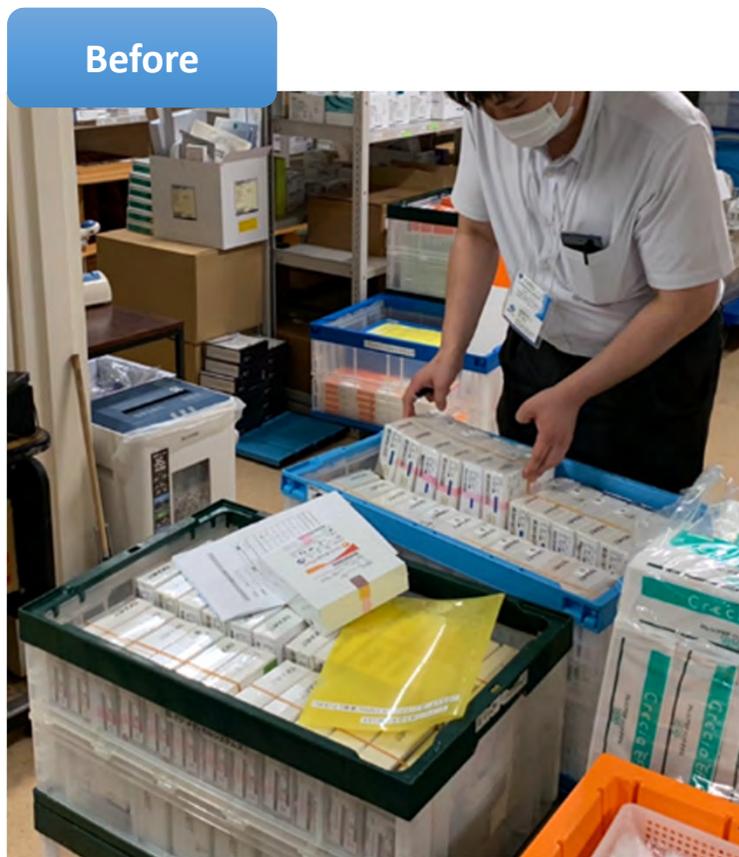


After



伝票の読上げと目視による検品 (2人) —————> RFIDタグの一括読取 (1人)

# 1-3.手術室 実証の様子 <返却>

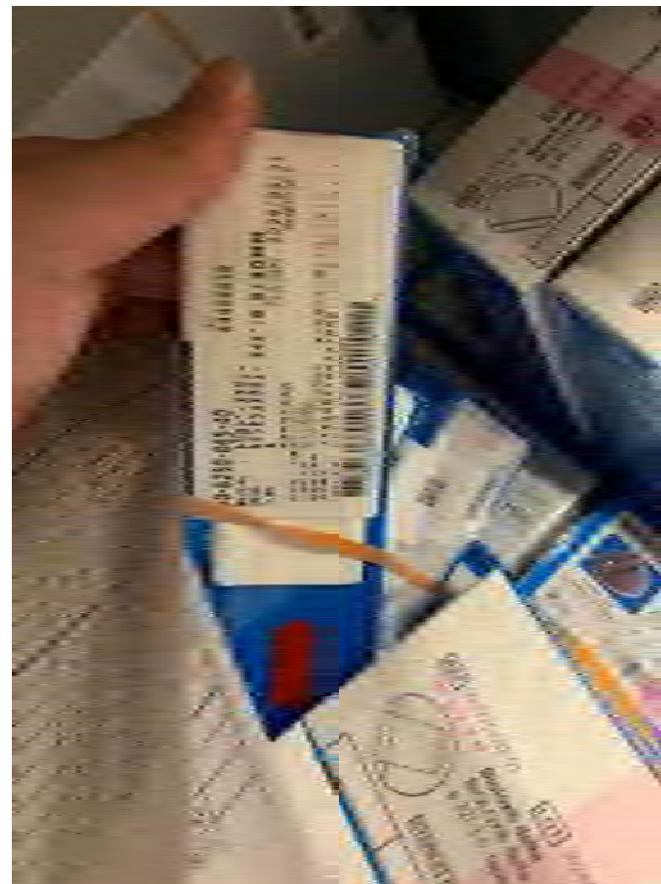


目視による検品 (1人)

RFIDタグの一括読取 (1人)

## 手術室 実証の様子

読取にくい商品（スクリュー類）



規格違いの多数の商品のRFIDタグが近接している。

# 導入効果

## 費用対効果の見込み

### 【1月当たりの削減時間】

$$805.5 \text{ (秒/月)} \times 50 \text{ (件/月)} = 40,275.0 \text{ (秒/月)}$$
$$= \mathbf{11.2} \text{ (時間/月)}$$

- ・1件当たりの削減時間は、入荷・返却検品の削減時間の合計平均（13分26秒）とする。
- ・1月当たりのインプラント製品使用手術件数を約50件、これらの全手術を当実証実験の手法で検品を行ったと仮定する。

### 【1月あたりの人件費削減】

$$11.2 \text{ (時間/月)} \times 1,679.9 \text{ (円/時間)} = \mathbf{18,841.9} \text{ (円/月)}$$

- ・毎月勤労統計調査（2020年5月時点）の現金給与総額（268,789円/月）と法定労働時間（160時間/月）より一時間当たりの人件費は1,679.9（円/時間）とする。

### 【費用の回収】

$$10,390,000 \text{ (円)} \div 18,841.9 \text{ (円/月)} = 552.2 \text{ (円/月)}$$
$$= \mathbf{46} \text{ (年)}$$

- ・本実証の費用を削減された人件費で回収するためにかかる時間

### 【実証費用の内訳】

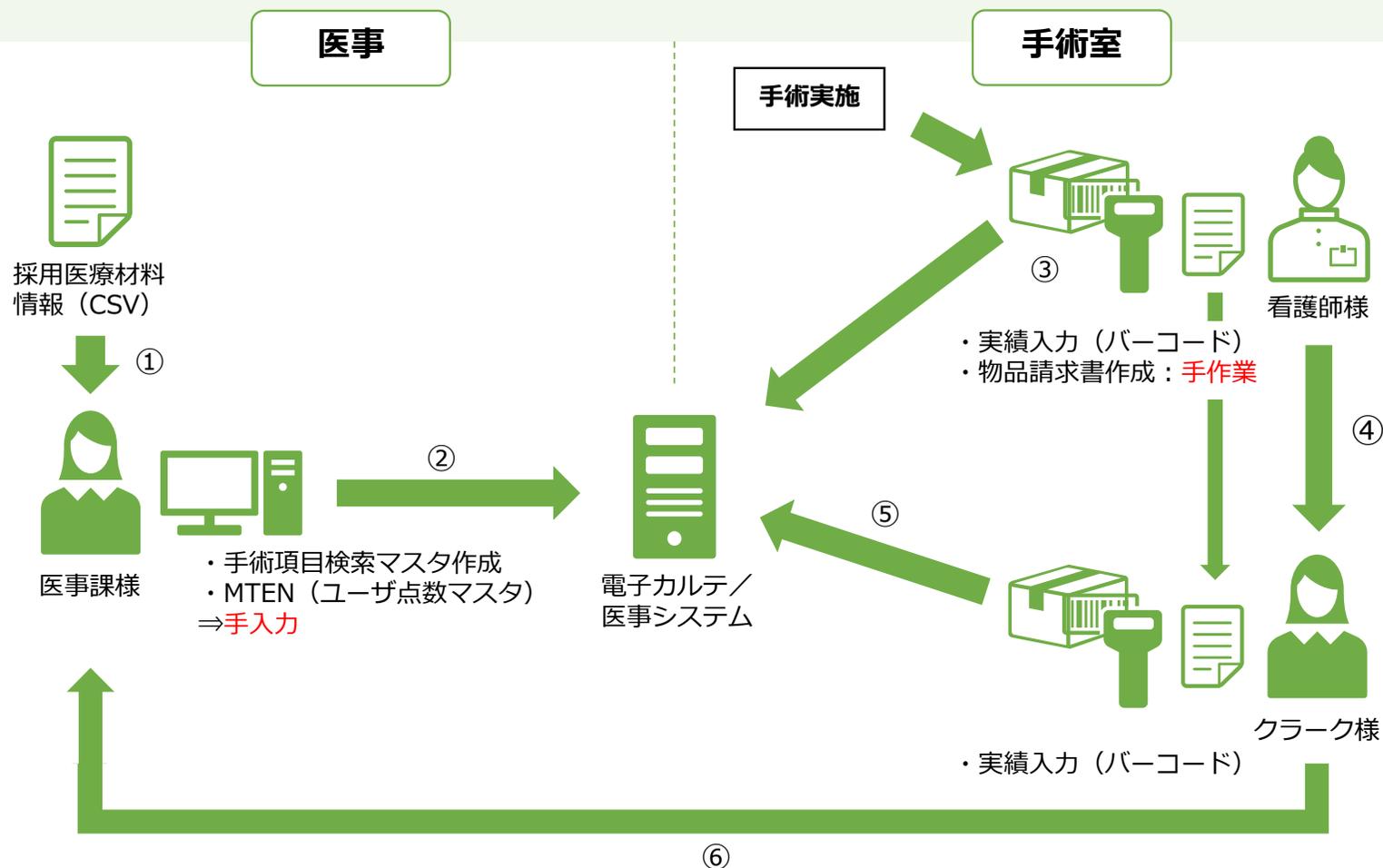
区分	内訳	一月当たりの削減費（円）
RFID管理システムの構築	システム開発	5,900,000
	RFIDリーダー(トンネル式)	2,600,000
	端末PC(RFIDコントロール)	90,000
マスタ整備	マスタ整備費用	1,800,000
	合計	<b>10,390,000</b>

- ・消費税抜きで計算している。
- ・小数点第二位以下を四捨五入している。

## ②手術室の実証実験 (電子カルテへの登録)

# 電カル関連システム対応の全体像とBefore・After

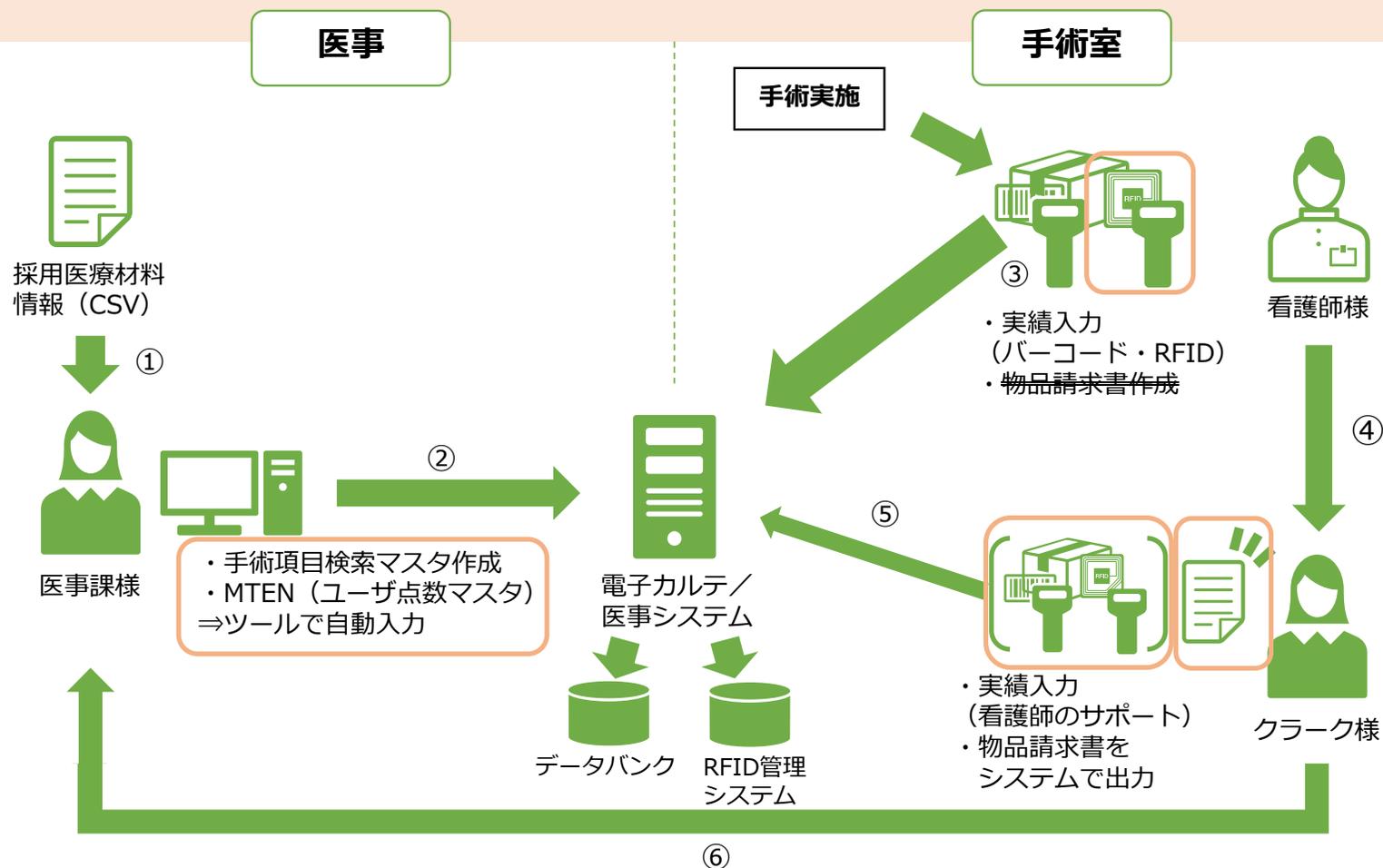
## • Before



※運用は一部模式化しています

# 電カル関連システム対応の全体像とBefore・After

## • After

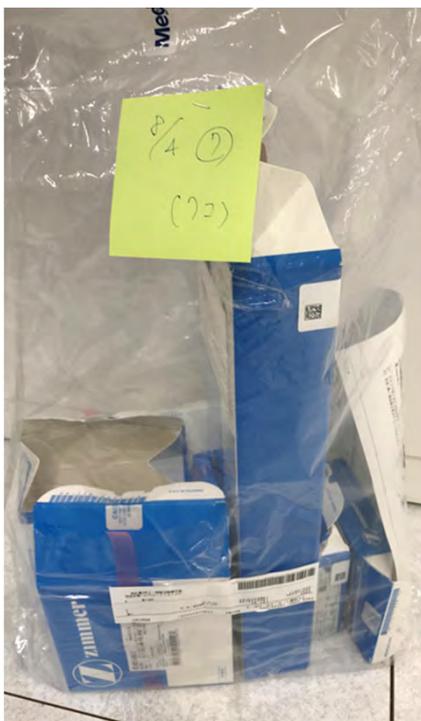


※運用は一部模式化しています

# RFIDによる使用材料実績登録

- Before・After イメージ

使用済みパッケージが  
袋に入った状態



**【Before】**



袋から取り出す



バーコード探す・読む

**【After】**

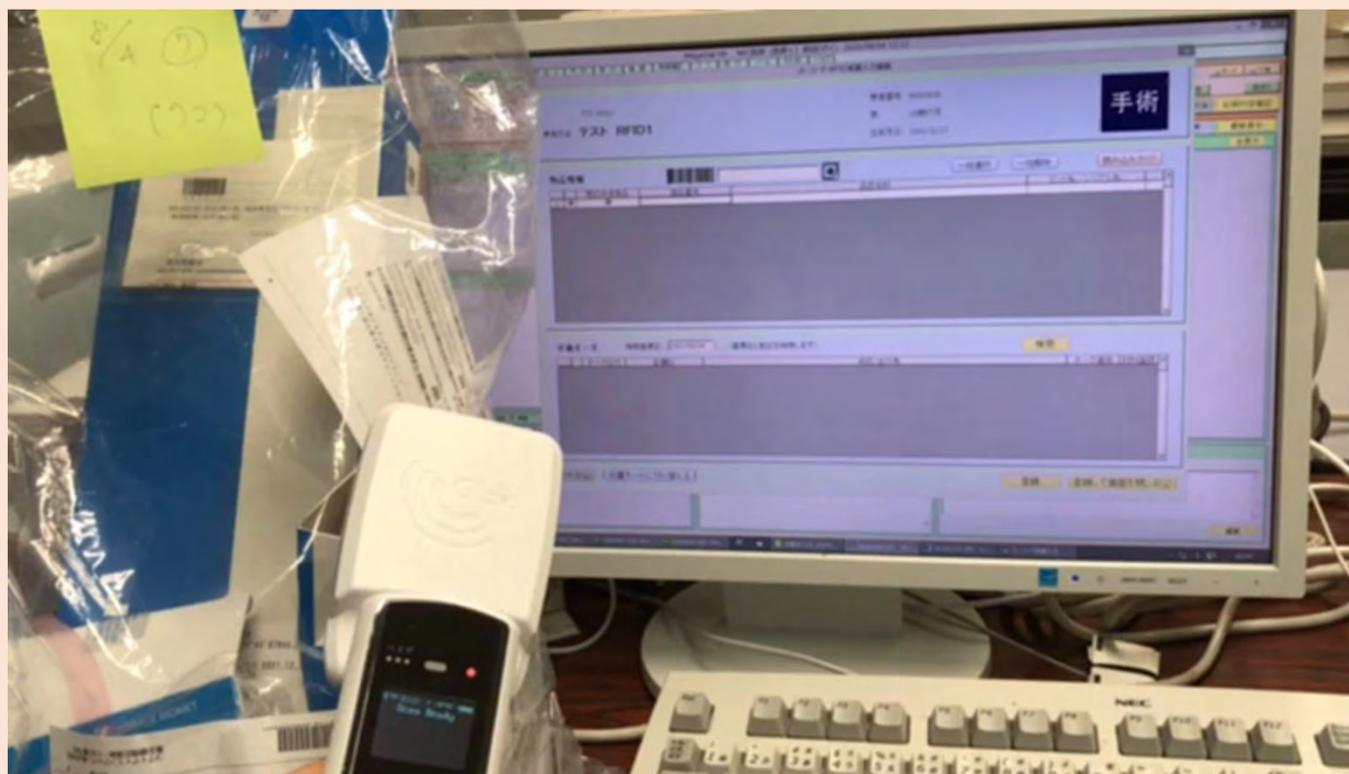
袋ごとスキャン



# RFIDによる使用材料実績登録

- RFIDを読み込んでいる様子

【After】



# 手術室 - 医事課間の情報伝達用一覧帳票

- 「物品請求書」

【Before】

パッケージについているシールを、  
手作業で切り貼りしている

**物品請求書**

請求部署: 手術室  
発注者: 内線・PHS  
2020年08月04日

品目	規格 ※1	単位	数量	購入理由 ※2	見積価格	発注業者	納品日
	048-01			<p><b>LOT</b> 64517906 EDI: 00875700001 <b>REF</b> 00-8757-000-01</p> <p>Continuum® Acetabular System Dome Hole Plug Single Pack</p> <p>2029-11-30</p>			
				<p><b>LOT</b> 64504217 EDI: 00625006525 <b>REF</b> 6250-65-25</p> <p>Bone Screw Self-Tapping 6.5 mm Diameter 25 mm Length</p> <p>2029-08-31</p>			
				<p><b>REF</b> 01.00551.303 EDI: 0100551303</p> <p>2921329</p> <p>2021-12-31 Qty: 501</p>			
				<p><b>REF</b> 00-8775-032-02 EDI: 00877503202</p> <p><b>LOT</b> 3085294</p> <p>2028-06-30 Qty: 011</p>			
				<p><b>REF</b> 00-8757-000-02 EDI: 00875700002</p> <p>Continuum® Acetabular System Screw Hole Plug Three Pack</p> <p>2028-08-31</p>			

※1 カタログ等があれば添付すること。  
※2 別途、購入理由書を要求することがあります。

# 手術室－医事課間の情報伝達用一覧帳票

- 「使用材料一覧表」

## 【After】

使用材料一覧表（手術）		患者番号 99000428	出力日時 2020/08/05 12:52:57					
		氏名 テスト	ページ 1 / 1					
術式 創傷処理（筋肉、臓器に達するもの（長径5cm未満））		依頼科 内科	手術日時 2020/07/02 14:00					
手術読み込み材料一覧								
品目名称	規格	医事コード	GTINコード	LotNo.	Serial No.	マスタ無	開封未使用	更新日
医療材料		79996	04560229925073		81999990014	×	×	2020/07/03
医療材料		79996	04560229925141		81999990010	×	×	2020/07/03
医療材料		79996	04560229925134		81999990013	×	×	2020/07/03
医療材料		79996	04562336037878		81999990002	×		2020/07/03
XCELトコカオブティユー 2B5LT	2B5LT	59946	04987482306409	R40X08				2020/07/02
フリザンVistaスチンステイラー ワイド、35針入 3995J	3995J ワイド 35針入	70466	04987580114876	W180040800				2020/07/02
エンド GIAトライスター M45 EG1A45AVM キヤム 2/2.5/3mm	エンド GIAトライスター M45 EG1A45AVM	68545	00613830165414	N8M0753KY				2020/07/02
BISセンサックTD 186-0106	H574 186-0106	64535	04987742236637	0806181J				2020/07/02
ハンガード CR E1ベアリング EP-183462	EP-183462	60516	04560229924748		81999990011			2020/07/03
医療材料		79996	04560229925158		81999990009	×	×	2020/07/03
医療材料		79996	04562336037892		81999990003	×	×	2020/07/03

※マスタが存在しないもの（「医療材料」と表示）の印字が課題

# 手入力→RFIDによる削減効果

## ● 測定結果

日付・連番	実績入力 (手入力)	実績入力 (RFIDタグ)	差 (手入力-RFIDタグ)	材料個数
7/21 ①	03:48	00:09	03:37	5個
7/21 ②	04:06	00:06	04:00	6個
7/28 ③	02:24	00:05	02:19	3個
7/28 ④	04:22	00:07	04:15	6個
7/30 ⑤	04:56	00:06	04:50	7個
7/30 ⑥	01:50	00:04	01:46	3個
8/4 ⑦	04:46	00:06	04:40	7個
8/4 ⑧	03:17	00:07	03:10	7個
合計	29:29	00:50	28:39	44個
平均	3:41	00:06	03:35	5.5個

(分:秒)

(分:秒)

(分:秒)

# 費用対効果

## バーコード読取→RFID読取

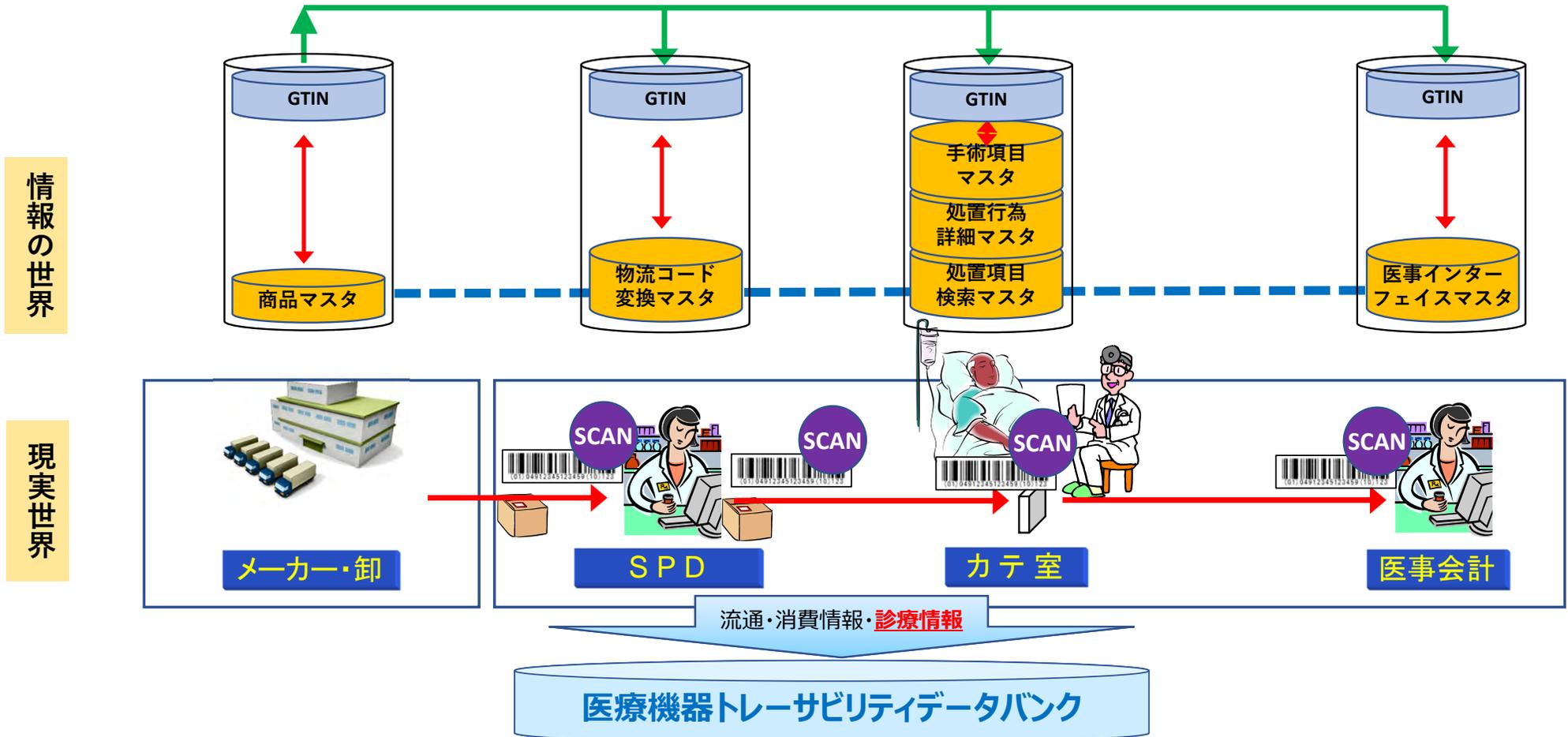
			備考
月間症例数	80	件	RFIDタグが使われる手術の平均件数
1症例あたりの改善数値	▲48	秒	
1症例あたりの改善費用	¥13.33	円/症例	
月間改善費用	¥1,067	円/症例(月:80件)	
年間改善費用	¥12,800	円/症例(年:960件)	
回収までの期間	380	年	RFID実績取込機能費用/年間改善費用

## バーコード読取→RFID読取

			備考
月間症例数	453	件	月間手術平均数(5500件/12ヵ月) ※全ての医療材料にRFIDが貼付された場合。
1症例あたりの改善数値	▲48	秒	
1症例あたりの改善費用	¥13.33	円/症例	
月間改善費用	¥6,040.00	円/症例(月:453件)	
年間改善費用	¥72,480	円/症例(年:5500件)	
回収までの期間	68	年	RFID実績取込機能費用/年間改善費用

### ③ データバンク

様々なシステムをどのようにつなげるか



# 医療機器トレーサビリティデータベースの検索例

SIP-消費情報一覧

app-service.med-databank.jp/sip/consumption-info-list

データバンク検索システム ログイン:[テスト ユーザー] ログアウト

### 消費情報一覧

病院名称 [必須] NCGM

JANコード (商品コード)

ロット/シリアル

集計期間

\*スペース区切りで複数の条件を指定できます

払出年月日	払出先部署	JAN (商品)
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	01843
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	06431
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	06431
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	07073
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	07630
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	08452
2020/07/20	NCGM:手術室	08845
2020/07/20	NCGM:手術室	08845
2020/07/20	NCGM:手術室	08845
2020/07/20	NCGM:血管造影室①	40354

前へ [1]

SIP-想定発注情報一覧

app-service.med-databank.jp/sip/consumption-order

データバンク検索システム ログイン:[テスト ユーザー] ログアウト

### 想定発注情報一覧

病院名称 [必須] NCGM

JANコード (商品コード)

ロット/シリアル

集計期間

\*スペース区切りで複数の条件を指定できます

発注先	JANコード (商品コード)	商品名
イノメディックス	4987350582997	47 フラッシュ
イノメディックス	4987350587596	47 フラッシュ(ビッグ)
イノメディックス	4987350595379	47 フラッシュ
イノメディックス	4987350674395	57 フォーカシングワイヤ
イノメディックス	4987578107729	SMAC 25 EXCV
イノメディックス	4987664097231	IP-MRI isp
イノメディックス	4987664101150	IP-MRI 造影剤
イノメディックス	7612367014120	IP-MRI 造影剤
イノメディックス	7612367020299	IP-MRI 造影剤
イノメディックス	8714729326281	造影剤

前へ [1] [2]

SIP-不具合ロット回収 (ディーラー/病院)

app-service.med-databank.jp/sip/dealer-collection

データバンク検索システム

### 不具合ロット回収 (ディーラー/病院)

病院名称 [必須] NCGM

JANコード (商品コード)

ロット/シリアル

集計期間

\*スペース区切りで複数の条件を指定できます

ロケーション	JANコード (商品コード)	商品名
NCGM:	0653405003741	VCARE子宮マシ
NCGM:	0653405003796	VCARE子宮マシ
NCGM:	0653405056273	子宮マシ
NCGM:	0667085000587	IP-MRI 造影剤
NCGM:	0667085000884	造影剤
NCGM:	0667085001270	造影剤
NCGM:	0667085011361	造影剤
NCGM:	0673978176727	造影剤
NCGM:	0673978176727	造影剤
NCGM:	0673978177656	造影剤

前へ [1] ... [6] 次へ

SIP-平均消費数・在庫日数一覧

app-service.med-databank.jp/sip/consumption-stock

データバンク検索システム ログイン:[テスト ユーザー] ログアウト

### 平均消費数・在庫日数一覧

JANコード単位での平日と土日の平均消費数および平均の在庫日数の一覧を表示する。

病院名称 [必須] NCGM

JANコード (商品コード)

ロット/シリアル

集計期間

\*スペース区切りで複数の条件を指定できます

クリア データ表示 戻る

病院	JANコード (商品コード)	商品名	平日平均消費量	土曜日平均消費量	日曜日平均消費量	現在在庫数量	在庫日数	起票日	在庫日
NCGM	0757770495603	造影剤	0	0	0	36		2020/08/07	
NCGM	0800008488134	造影剤	0	0	0	10		2020/08/07	
NCGM	0801902001221	造影剤	0	0	0	10		2020/08/07	
NCGM	0810607002082	造影剤	1.0	0	0	7	11	2020/08/07	
NCGM	0810607002099	造影剤	0	0	0	1		2020/08/07	
NCGM	0827002009950	造影剤	1.0	0	0	4	6	2020/08/07	
NCGM	0827002009967	造影剤	1.0	0	0	3	5	2020/08/07	
NCGM	0827002012127	造影剤	0	0	0	1		2020/08/07	
NCGM	0827002131026	造影剤	1.0	0	0	1	3	2020/08/07	
NCGM	0827002131064	造影剤	1.0	0	0	3	5	2020/08/07	

前へ [1] ... [11] [12] [13] [14] [15] ... [152] 次へ

想定

平均消費数

不具合ロット回収

# トレーサビリティデータバンクによる、新しいメディカルロジスティクス

ポストコロナへの対応

## 消費状況の把握

- いつ、どこで、何を（ロット別に）、いくつ使ったかがわかる（医療機関よし、卸よし）
- 診療情報と組み合わせると、どのような症例で何が使われているかわかる（メーカーよし、卸よし）
- リアルタイムの消費トレンドから、現場での変化を早期に把握（メーカーよし、卸よし）
- 他の病院とのベンチマークにより、適正使用の情報源になる（医療機関よし、社会よし）

## 在庫管理

- 卸がカテ室に入らなくても、手元でリアルタイムの在庫管理（メーカーよし、卸よし）
- 使途不明材料会議の精神的負担の軽減（卸よし、医療機関よし）
- 過剰な在庫の状況もわかり、購買適正化（AIの活用等）に活用できる（医療機関よし）
- 有効期限間近な在庫を把握することができ、適正な対応が可能に（卸よし、医療機関よし）
- 医療施設が増えれば、災害時の医療材料手当のための情報源になる（社会よし）

## トレーサビリティ

- 不具合ロットの医療材料を、スピーディーに効率よく回収（卸よし）
- どの患者さんに対象ロットが使用されたかを追跡することも可能（医療機関よし）
- 全国の回収の進捗状況も把握できる（メーカーよし、社会よし）

## 課題と進むべき方向性

### ① 一般医療材料（買取品）等の管理業務の効率化

- 人件費の圧縮効果（9,479円／日）は、あったがRF-IDタグの費用（12,000円／日）が上回り、トータルとして赤字（-2,521円）

### ② 手術室における整形インプラントの持ち込み品管理・使用物品記録の効率化

- 入荷・返却業務：システム構築・導入等の費用の回収に、46年
- 使用材料登録業務（電子カルテ）：システム費用回収に、68年

- 一部の業務（出荷・検品）のみで利用する場合、効果が出ない
- 一部の医療機関のみで個別改造する場合には、改造費用の回収が出来ない



- メーカーやディーラー、SPDの管理業務にも使用するものが、出荷、納品検収、病院の中で使用される
- 個々の病院の電子カルテの改造ではなく、電子カルテの基本機能として整備

研究課題：医療機関における医療安全および業務効率化に資する医薬品・  
医療機器のトレーサビリティ確立に向けた研究(20IA2010)

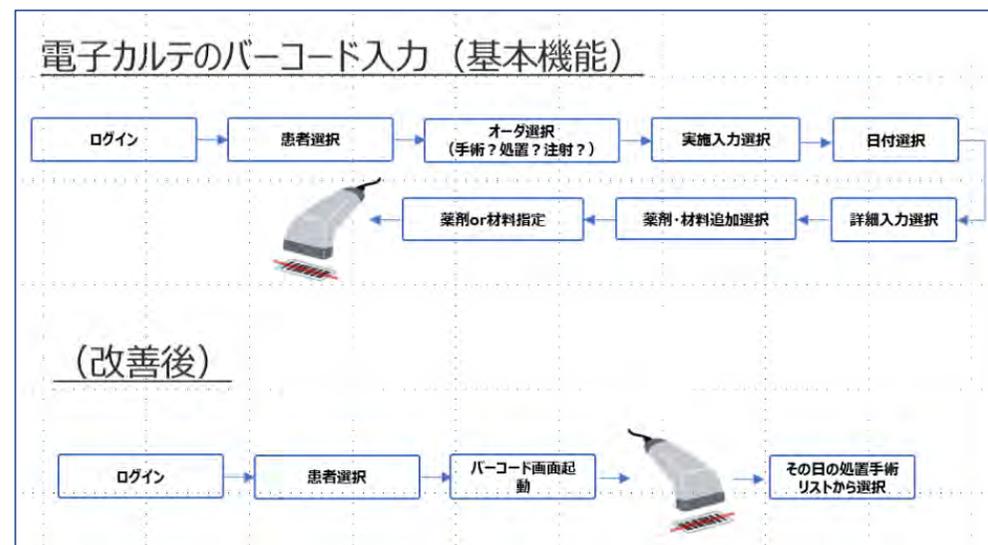
研究期間：令和2年4月1日から令和3年3月31日

研究代表者：美代 賢吾(国立国際医療研究センター)

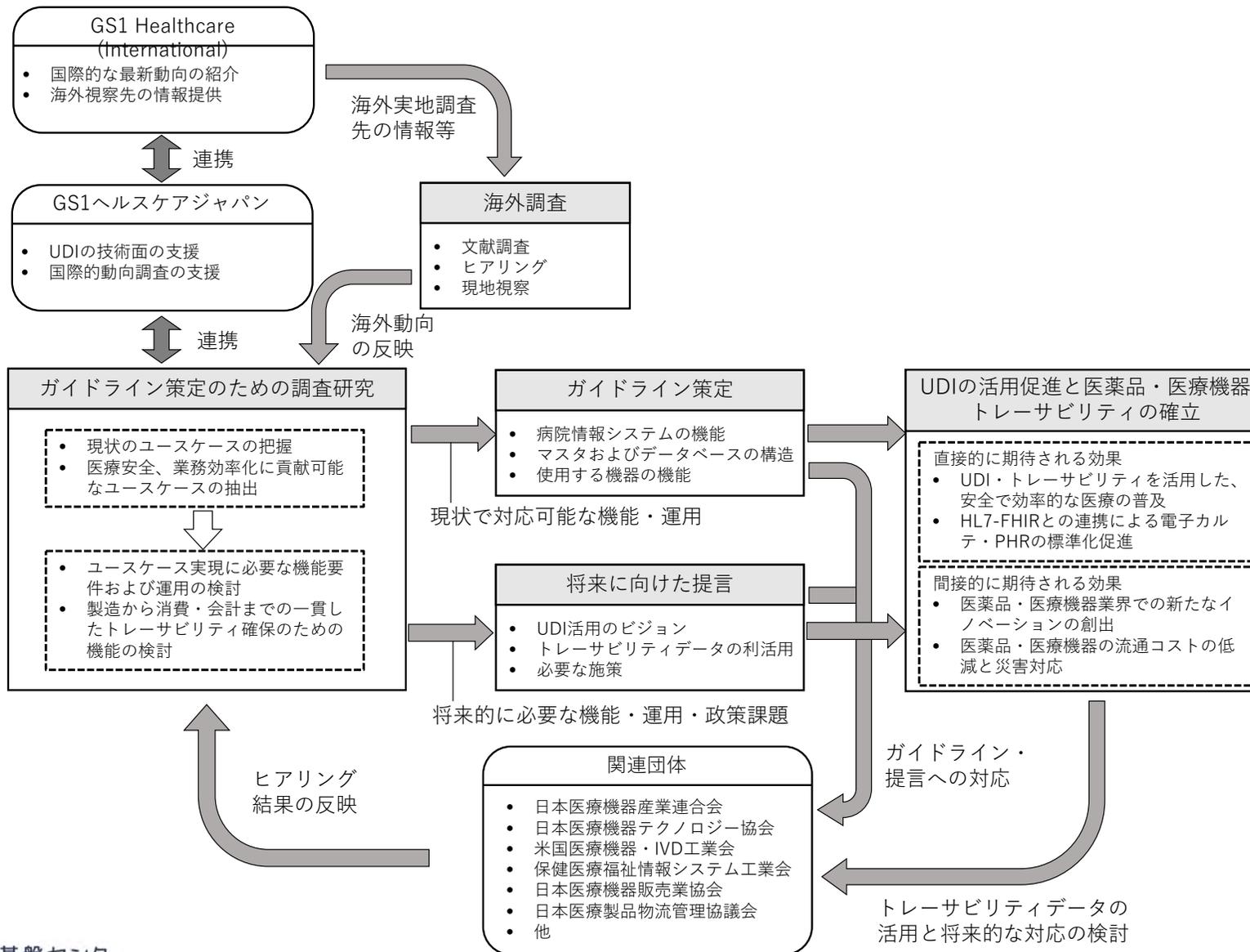
## 目的

- 令和元年11月、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」が改正され、製造業者によるバーコードの貼付が義務化
- 医療機関でのバーコード利活用を促進する方策について研究を実施
- 標準的な利活用手順書を作成するとともに、電子カルテがパッケージとして備えるべき標準機能の提案を行う

例)



大手の電子カルテシステムの基本機能ではバーコード機能を使用するまでに、8つの手順が必要。改善により4つの手順に短縮可能。基本機能の改善により、医療者の負担が減るとともに、利活用が進むと期待される



バーコード／RF-IDを活用している病院情報システム

2021年1月20日 時点

※注意事項

本資料は閲覧用に記載を一部変更しております。

No.	分類	システム名 ／バージョン (ベンダー)	機能名	病院	コード体系 データキャリア	機能概要	課題・問題
1	注射	注射支援システム A社	注射剤取り揃え	A病院	ローカルコード GS-1(GTIN)	注射剤取り揃え	・薬品マスタにGS1コードを登録する項目はある。 2019/7/30ではこのGS1コードを登録する項目には何も入れていない。 薬品照合や帳票等ではGS1コードを使用していない。
2	処方	薬剤部門システム B社	散剤監査システム 錠剤包装機充填確認	A病院	ローカルコード GS-1	・調剤支援、服薬指導、麻薬管理	・散薬監査システム、混注監査システムにおいて、JANコード、GS-1コード ・錠剤カセット充填システムにおいて、GS-1コードを使用している
3	物流	物流管理システム C社	入庫管理	A病院	GS-1	単独 (入出庫のみ)	・出庫管理はローカルコード
4	輸血	輸血管理システム D社	輸血マスタ	A病院	・輸血バックの2次元バーコード(日赤) ・【new】輸血バックの2次元バーコード(NDD)	-	・GS1が使用されているのは左記の2点 ・マスタには使用していません。 ・バーコードの規格は「TBCCHKM」というマスターで制御しているが、特殊なバーコード(GS1の2次元等)についてはプログラムで対応している
5	注射	電子カルテシステム E社	点滴・注射・3点認証	B病院	オーダー番号 (ローカル、患者番号)	点滴実施時に指示と点滴内容があっているか確認する	MegaOak-M3とマスタ連携が出来ていない
6	医事会計	医療事務システム F社	医事会計	B病院	ローカルコード	医事会計時に、患者番号を基本カードから読み取っている	MegaOak-M3とマスタ連携が出来ていない
7	物流	物流管理システム F社	請求・払出・発注・納品	B病院	ローカルコード GS1-128	入荷時のロット逆転のチェック 臨時出庫時の照合 など	調剤支援システムと在庫連携が必要(双方で在庫管理)
8	処方	調剤支援システム G社	払出・照合作業	B病院	ローカルコード GS1-128	ピッキングリストや処方箋と医薬品のGS1で照合 など	MegaOak-M3と在庫連携が必要(双方で在庫管理)
9	手術	手術管理システム H社	患者別消費実績	B病院	GS1-128	術式定数の検品と手術後の使用実績をRFIDで実施	準備品以外の医療機器の使用実績 アルミ包装の医療機器
10	物流	物流管理システム I社	購入・払出 消費管理	C病院	GS-1 包装単位 医療材料一部 RF-ID	消費・コスト管理・追跡管理	-
11	処方	電子カルテシステム I社	医薬品の請求管理	C病院	GS-1 包装単位	発注・出庫・棚卸	-
12	輸血	血液浄化療法業務システム J社	透析管理	C病院	ローカルコード	-	-
13	手術	滅菌システム K社	滅菌オーダー管理	C病院	鋼製器具RF-ID	鋼製器具のトレーサビリティ	-
14	注射	電子カルテシステム I社	注射実施	C病院	オーダー番号 (ローカル) 患者ID (リストバンド)	点滴・注射・3点認証	-
15	注射	電子カルテシステム I社	注射実施	C病院	GS-1 調剤包装単位	インスリン実施入力	-
16	輸血	輸血検査システム I社	輸血検査・製剤管理	C病院	輸血バックバーコード	実施管理	-
17	手術	手術部門システム I社	手術管理	C病院	ローカルコード	術中機材管理	-

18	処方	薬剤部門システム L社	薬剤部業務制御管理	C病院	GS-1	処方・注射オーダー 処方解析・処方箋出力 各機器制御	-	
19	処方	薬剤部門システム L社	調剤支援システム	C病院	GS-1 調剤包装単位 GS-1 販売包装単位	調剤支援システム 薬剤部調剤薬在庫期限管理	-	
20	注射	電子カルテシステム I社	点滴・注射・3点認証	D病院	オーダー番号（ローカル） NW7	点滴実施時に指示と点滴内容が あっているか確認する	-	※電子カルテ分
21	注射	電子カルテシステム I社	リストバンド印刷	D病院	患者番号 NW7	注射認証や輸血認証時の患者番号 の読み取りに使用	-	※電子カルテ分
22	検査	電子カルテシステム I社	検体ラベル	D病院	オーダー番号（ローカル） NW7	採取検体の受付に使用	-	※電子カルテ分
23	検査	電子カルテシステム I社	病理ラベル	D病院	オーダー番号（ローカル） NW7	採取検体の受付に使用	-	※電子カルテ分
24	処方	電子カルテシステム I社	院外処方せん	D病院	院外処方箋内容（JAHIS規 約準拠） QRコード	調剤薬局のシステムで、院外処方 せん内容の読み取りに使用	-	※電子カルテ分
25	輸血	輸血部門システム I社	輸血認証	D病院	日赤製剤ロット番号 NW7	輸血実施時に指示と日赤製剤が あっているか確認する	-	※電子カルテ分
26	放射線	放射線RISシステム I社	患者認証	D病院	患者ID NW7	検査時の患者認証に使用	-	※電子カルテ分
27	放射線	放射線治療RISシステム I社	患者認証	D病院	患者ID NW7	検査時の患者認証に使用	-	※電子カルテ分
28	処置	リハビリ部門システム I社	リハビリ処方箋	D病院	患者番号 NW7	リハビリ処方箋からの患者番号読 み取りに使用	-	※電子カルテ分
29	医事会計	医事会計システム I社	再来受付票	D病院	患者番号 NW7	キオスク端末での患者識別に使用 しています	-	※電子カルテ分
30	医事会計	医事会計システム I社	定期請求書／退院時請求書	D病院	患者番号 CODE-39	自動精算機での患者識別に使用し ています（診察券の代わり）	-	※電子カルテ分
31	医事会計	医事会計システム I社	領収書（自動精算機のみ）	D病院	不明 QRコード	駐車場無料化システムで使用して います	-	※電子カルテ分
32	医事会計	医事会計システム I社	会計番号券	D病院	会計番号 NW7	会計表示盤の番号点灯、消灯に使用 しています	-	※電子カルテ分
33	電子カルテ	病歴資料管理システム M社	画像CD（DVD）ラベル シール	D病院	カルテ番号／患者番号 NW7	他院、自院の画像CD（DVD） の管理に使用しています	-	※電子カルテ分
34	検査	検体検査システム N社	検体到着確認業務	D病院	検体番号 NW-7	検体に貼ってあるラベルのバー コードを読み込んで検体の到着処 理を行う	-	※部門システム分
35	検査	検体検査システム N社	入力	D病院	検体番号 NW-7	システム上で検体に貼ってあるラ ベルのバーコードの番号を読み込 むことで入力の簡素化をはかる	-	※部門システム分
36	検査	細菌検査システム N社	検体到着確認業務	D病院	オーダー番号 NW-7	検体に貼ってあるラベルのバー コードを読み込んで検体の到着処 理を行う	-	※部門システム分
37	放射線	統合画像情報システム O社	-	D病院	-	対象無し	-	※部門システム分

38	放射線	統合画像情報システム P社	-	D病院	-	対象無し	-	※部門システム分
39	電子カルテ	耳鼻科ファイリングシステム Q社	患者ID指定	D病院	患者ID CODE-128	患者ID手入力を省く	-	※部門システム分
40	電子カルテ	文書管理システム Q社	文書スキャン	D病院	QRコード	スキャン依頼票を使用することで患者情報や文書種別の入力を省く	-	※部門システム分
41	検査	病理検査システム R社	-	D病院	-	対象無し	-	※部門システム分
42	電子カルテ	栄養管理システム S社	-	D病院	-	対象無し	-	※部門システム分
43	電子カルテ	看護部門管理システム T社	-	D病院	-	対象無し	-	※部門システム分
44	処置	透析通信システム U社	患者認証	D病院	GXの入院患者バーコード	GXで発行された入院患者バーコード(手首に巻かれた物)を読み取り、透析通信システムの体重計システムにて、患者認識を行う	特に無し	※部門システム分
45	電子カルテ	診察待表示システム V社	順番検索	D病院	NW-7	患者様にて診察券を読み取り、診察待ち状況を確認する	診療の内容により、順番が前後するため、あくまで目安の情報でしかない	※部門システム分
46	処方	調剤支援システム W社	錠剤分包機、 散薬調剤ロボット	D病院	RFID	錠剤カセット、散薬カセットに薬品を充填する際のチェック	-	※部門システム分
47	処方	調剤支援システム W社	錠剤分包機、 散薬調剤ロボット	D病院	JAN、GS1	錠剤カセット、散薬カセットに薬品を充填する際のチェック	-	※部門システム分
48	処方	調剤支援システム W社	散薬監査システム	D病院	JAN、GS1	秤量する薬品のチェック	-	※部門システム分
49	処方	調剤支援システム W社	散薬監査システム	D病院	トレイNo(散薬監査システムで発番) ITF	散薬分包機にて該当の処方と呼び出す際に使用	-	※部門システム分
50	処方	調剤支援システム W社	処方箋	D病院	処方No(調剤システムで発番) (CODE39)	散薬監査システムにて該当の処方と呼び出す際に使用	-	※部門システム分
51	処方	調剤支援システム W社	麻薬管理システム	D病院	オーダー番号(電子カルテから発行) (NW-7)	麻薬管理システムにて該当の処方と呼び出す際に使用	-	※部門システム分
52	処置	内視鏡部門システム I社	患者ID認証	D病院	CODE-128 NW-7	装置でオーダー情報を取得し、検査開始状態にする。 (HISの帳票に印刷されているバーコードを使用しています。複数のコード体系を読み取り可能に設定しています)	無し	※部門システム分
53	処置	内視鏡部門システム I社	スコープID認証	D病院	CODE-128	①使用したスコープの情報を登録する。 ②洗浄する際に読み取り洗浄履歴を登録する。	無し	※部門システム分
54	検査	機能検査ファイリングシステム/脳波解析システム X社	検索	D病院	患者ID	専用端末でバーコード読み取り時、患者一覧から該当患者を絞り込み。	-	※部門システム分
55	検査	機能検査ファイリングシステム/脳波解析システム X社	検索	D病院	オーダー番号	専用端末でバーコード読み取り時、患者一覧からスキャナ登録画面・オフラインデータ登録画面へ遷移する	オーダー番号の読み込む元媒体がないため、今機能は使用していない	※部門システム分

56	検査	機能検査ファイリングシステム/脳波解析システム X社	オーダー取得	D病院	患者ID	心電計、運動負荷試験装置などで、患者IDをバーコード読み取りをした際、オーダー情報を受信し、心電計画面上にオーダー情報を表示する	-	※部門システム分
57	電子カルテ	電子カルテシステム Y社	受付（診察券）	E病院	患者番号（ローカル）NW-7	患者の診察券に利用	受付機でバーコード対応が必要	
58	電子カルテ	電子カルテシステム Y社	受付・各科受付	E病院	患者番号（ローカル）CODE-128	患者の受付及び各科受付確認に利用	-	
59	検査	電子カルテシステム Y社	検査・診療誘導案内	E病院	患者番号（ローカル）CODE-128	患者の誘導・動線・受付状況管理	-	
60	注射	電子カルテシステム Y社	実施確認・3点認証	E病院	指示番号（ローカル）CODE-128 一部の薬品確認でGS-1を利用	注射等の実施確認 利用状況の把握	リストバンドや薬品のバーコードが斜めになる場合があり、読み取り精度が課題	
61	検査	検査部門システム Z社	検体管理	E病院	オーダー番号（ローカル）CODE-128	採血等の検体の管理と自動化	-	
62	検査	採血管理システム a社	採血患者受付管理	E病院	指示番号（ローカル）CODE-128	採血順番の管理と誘導	-	
63	輸血	輸血管理システム b社	製剤管理	E病院	指示番号（ローカル）CODE-128	血液製剤・自己血管理	-	
64	注射	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社	注射3点認証（実施入力）	F病院	患者リストバンド： 患者ID（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7 外来患者呼出受信機 患者ID（ローカル） NW7  注射ラベル： オーダー番号＋版数（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7	注射実施時に、オーダー番号＋版数から適時かつ有効な指示であるかを確認し、患者リストバンドの患者IDと照合する。一致した場合、オーダーの詳細を表示し、PDAログイン者での実施入力を行い、電子カルテに記録する。持続点滴の終了時には、再度、注射ラベルのRFIDを読み込み終了記録を作成する。  ※外来患者の場合は、外来患者呼出受信機の電子ペーパーに表示されるバーコードで患者認証する。	・厳密には、「注射ラベル」と「患者リストバンド」による認証であり、薬剤自身の認証ではないため、注射ラベルが正しい薬剤に貼付されていること、患者リストバンドが患者本人に確実に装着されていることを別工程で担保する必要がある。	注射認証
65	注射	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社	注射認証（病棟受け入れ時の薬剤確認）	F病院	職員ネームカード： 患者ID（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7  注射ラベル： オーダー番号＋版数（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7	薬剤部から払い出された注射の病棟での受け入れ時に、払い出された注射薬剤と認証用注射ラベル、病棟で主治医が発行した注射指示書の3つの記載を確認し、指示通りの薬剤、認証ラベルであることを職員2名で確認し、2人目の確認者のネームカードをPDAで読み込み、チェック記録を電子カルテに作成する。（1人目はPDAのログイン者）	・薬剤の確認は、職員2名による読み合わせと目視確認であるため、人的間違いの要素が残存する。	注射ダブルチェック

66	輸血	輸血管理システム c社	血液製剤・自己血液剤の入庫・出庫管理	F病院	血液製剤： NW-7、GS1データバー合成シンボル（日赤発行、自己血の場合はローカル）  院内製剤番号： RFタグ(I-CODE SLI)およびNW-7	血液製剤を輸血部に入庫する際に、製剤パックのGS1データバー合成シンボルを読み込む。院内でのRFタグによる3点認証用の院内製剤番号（ローカルコード）を発番し、製剤入庫時に認証ラベルを取り付ける。 輸血部からの現場への払い出しには、ローカルコードの製剤番号のバーコードを読み取り処理する。	・血液製剤にはGS1データバー合成シンボルが貼付されているが、RFタグによる3点認証のため、入庫時にローカルコードを発番し、同情報のRFタグを取り付ける作業が必要となっているため、製剤入庫時の輸血部の作業が必要となっている。	輸血入庫・タグ貼付
67	輸血	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社	輸血3点認証（実施入力）	F病院	患者リストバンド： 患者ID（ローカル） RFタグ(I-CODE SLI)およびNW-7 外来患者呼出受信機 患者ID（ローカル） NW7  輸血認証ラベル： 製剤番号（ローカル） RFタグ(I-CODE SLI)およびNW-7	輸血実施時に、血液製剤貼付の院内製剤番号、患者リストバンドの患者IDを読み、照合する。一致した場合、PDAログイン者での実施入力を行い、電子カルテに記録する。輸血の終了時には、再度、血液製剤のRFIDを読み込み終了記録を作成する。  ※外来患者の場合は、外来患者呼出受信機の電子ペーパーに表示されるバーコードで患者認証する。	・厳密には、「患者」ではなく、「患者リストバンド」による認証であるため、患者リストバンドが患者本人に確実に装着されていることを別工程で担保する必要がある。	輸血認証（開始&終了）
68	輸血	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社	輸血認証（病棟受け入れ時の製剤確認）	F病院	職員ネームカード： 患者ID（ローカル） RFタグ(I-CODE SLI)およびNW-7  輸血認証ラベル： 製剤番号（ローカル） RFタグ(I-CODE SLI)およびNW-7	病棟での血液製剤受け入れ時に、輸血部から払い出された血液製剤と支給票、輸血指示書を、職員2名で確認し、2人目の確認者のネームカードをPDAで読み込み、チェック記録を電子カルテに作成する。（1人目はPDAのログイン者） ※外来患者の場合は、外来患者呼出受信機に表示されるバーコードで患者認証する。	・血液製剤の確認は、職員2名による読み合わせと目視確認によるため、人的間違いの要素が残存する。	輸血ダブルチェック
69	輸血	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社	輸血副作用登録	F病院	輸血認証ラベル： 製剤番号（ローカル） RFタグ(I-CODE SLI)およびNW-7	輸血実施注の副作用評価時に、血液製剤の認証ラベルをPDAで読み込み、副作用の有無や内容を登録する。	・特になし	輸血副作用登録

70	検査	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社	採血管・検体採取容器認証	F病院	患者リストバンド： 患者ID（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7 外来患者呼出受信機 患者ID（ローカル） NW7  採取管ラベル： 採取管番号（ローカル） NW-7	病棟採血、外来処置室での採血時に、患者リストバンド（入院患者）または外来患者呼出受信機画面（外来患者）の患者IDのRFタグまたはバーコードと、検体検査（検査部、輸血部、薬剤部、病理部）の採取管コードを読み取り認証する。認証結果は電子カルテに記録され、認証時刻は検体採取時刻として、検査結果時系列表示の時刻にも利用する。	・本システムの構築後にLISが更新され、外来中央採血室での検査では、採血管準備装置から、UHF帯のRFタグ付の採取管ラベルが発行可能になり、これを活用した検体トレースを開始した。病棟の全採血に適用範囲を拡大するには、病棟のラベルプリンタで出力される臨時検査用の採取管ラベルにもUHF帯のRFタグ付ラベルが必要なほか、ベッドサイドでの採血時にはUHF帯のタグが読み取れるPDAの導入が必要とされている。	採血管・採取容器認証
71	電子カルテ	電子カルテシステム I社 携帯端末システム I社 生体情報モニタシステム d社	生体情報モニタ・患者登録	F病院	患者リストバンド： 患者ID（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7 外来患者呼出受信機 患者ID（ローカル） NW7  ベッドサイドモニタ： 装置番号（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7	入院患者にベッドサイドモニタを接続した際、装置に貼付したRFタグと患者リストバンドをPDAで読み込むことで、装置の紐付けを行い、バイタルデータを電子カルテの経過表に連携させる。 ベッドサイドモニタの交換時や取り外し時も、同様に、ベッドサイドモニタ貼付のRFタグを読み取ることで行う。  PDAシステム停止時のバックアップ手段として、電子カルテ端末から、病棟に整備した装置のバーコード一覧票を読み込むことでも登録・解除も可能としている。	・特になし	生体モニタ患者連携
72	手術	手術麻酔管理システム e社 携帯端末システム I社	入室患者認証	F病院	患者リストバンド： 患者ID（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7 外来患者呼出受信機 患者ID（ローカル） NW7  手術室入り口扉の識別子： 手術室番号（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7	手術患者が手術室に入室する際、当該手術室入口で、患者リストバンドと手術室ドアのRFタグをPDAで読み取る。PDAは手術麻酔管理システムへ照会し、その部屋の同システム端末で現に手術準備している患者と一致するかを照会し、一致する場合は、PDA画面に入室可の表示を行う。 （※臨時の部屋の入れ替えがあるため、割り振り情報ではなく、当該手術室で準備している患者IDを認証対象としている）	・特になし	手術室入室患者認証

73	物流	電子カルテシステム l社 滅菌管理システム f社	滅菌器材の使用登録	F病院	患者リストバンド： 患者ID（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）およびNW-7  滅菌器材の識別子： 器材番号（ローカル） RFタグ（I-CODE SLI）	・滅菌器材（鋼製小物）の個品は二次元コード（ローカルコード）により滅菌管理システムで管理されている。 ・手術用にキット化した段階でUFH帯のRFタグが付され、中央材料部でのトレースに利用されている。 ・同キットには、別途HF帯のRFタグも付され、患者への使用時には、患者リストバンドのRFタグと手術キットのRFタグを読み込むことで、滅菌材料の患者への使用記録を作成し、HIS端末から参照・トレース可能としている。	・現在、各鋼製小物へのマーキングは二次元コードで行っているが、新規購入した器材への刻印作業が時間的・費用的な負担となっている。	滅菌器材使用記録
74	物流	電子カルテシステム l社 医事会計システム l社 物流管理システム g社	医療材料の患者への使用実績の電子カルテ記録および医事システム連携  (※12月10日に構築完了し、運用開始のための院内調整の予定。)	F病院	医療材料消費回収シート： 発注伝票番号、発注数量、部署マスタコード、診療科マスタコード（ローカル）NW-7  物品マスタコード（JANコード） GTIN-13  患者ID（ローカル） CODE-39  物品在庫ユニークコード（ローカル） CODE-128およびQR	物流システムの物品マスタはGTIN-13が付されており、納品物検収時には、物流システムの発注情報の物品・数量が適切に納品されているが、納品物のGTIN-13をハンディターミナルで読み込み突合する。このとき、GTINコードで有効期限も読み込みチェックしている。 納品された物品には、院内のユニークコードが発番されたシールが貼付され、現場へ提供される。 現場では、消費時に部署・診療科・患者ID、使用日のバーコードが印刷された回収シートに物品のシールを貼付し、SPDセンターへ返却する。（一定金額以下の場合は、患者IDは無く、部署の粒度での管理） SPDセンターは返却された回収シートを読み込み、消費を管理する。 上記、読み込んだ結果は「医療材料資料記録」として電子カルテへ連携し、さらに医事会計システムにも連携し、レセプトの記載情報にも使	・医療材料は、診療現場の需要に応じて、迅速に登録する必要があるため、都度マスタメンテナンスするのが、SPD部門の大きな負担となっている。 ・医事会計システムの課題として、医事システムはローカルコードで管理されているが、複数規格存在する大量の医療材料を扱うにはコードの桁数が不足する。そのため、規格違いについて別のコードで1:N拡張しており、マスタ全体の見通しが悪くなっている。 ・SPDセンターで複数材料をセット化して払い出す場合、院内のユニークコードがセット単位になるため、セットの内訳を直接確認することが、現場レベルでは容易に行えない。そのため、医事課の会計担当が正しく材料が請求されているかを確認する際の突合が煩雑となる。	特材の使用登録
75	注射	電子カルテシステム l社 携帯端末システム l社	特性生物由来製品・生物由来製品ロット番号登録  (※構築完了し、運用開始のための院内調整中)	F病院	GS1複合シンボル (製品出荷時に付加)	PDAでの注射3点認証の開始実施時、薬剤マスタでロット管理が必要な薬剤の場合、GS1複合シンボルを読み取り、ロット番号を電子カルテに登録し、記録簿のデータを作成する。	・ロット番号の記録が必要な薬剤であるかどうかは、薬品マスタをメンテナンスして維持管理する必要がある。	特定生物由来材料ロット登録

76	放射線	電子カルテシステム I社 造影剤エビデンスシステム h社	CT、MRI造影剤副作用確認	F病院	RFタグ（製品出荷時に付加）	造影剤に付加されているRFタグが造影剤注入装置へのセット時に読み込まれる。造影検査実施時に、電子カルテの患者プロフィールに登録されている造影剤副作用情報をRIS経由で造影剤エビデンスシステムへ送信し、使用する造影剤に対するアレルギーのチェックを行い、警告/注入不可とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この仕組みのため、患者プロフィールの造影剤副作用登録をYJコードによりマスタ化した。今後、新規の造影剤が発売された際は、電子カルテと造影剤エビデンスシステムの双方を継続的にマスタメンテナンスする必要がある。</li> <li>・他施設での副作用歴も登録する必要があるため、電子カルテに登録する造影剤は、自施設採用薬のみではなく、全薬品の登録が必要であった。</li> <li>・過去の情報で粒度が不十分（「ヨード造影剤」など）な場合、チェックシステムとしては広くチェックする動作とするため、概して、警告が出やすくなる。</li> </ul>
----	-----	---------------------------------	----------------	-----	----------------	--	--

CT、MRI造影剤

## 物品マスタ

※本資料は閲覧用に記載を一部変更しております。

No.	システム名 /バージョン (ベンダー)	マスタ名	病院	関連機能	登録品目数
1	物流管理システム A社	医療材料マスタ (SPD)	A病院	単独 (入出庫のみ)	16,871品目
2	物流管理システム A社	医薬品マスタ (SPD)	A病院	単独 (入出庫のみ)	2,083品目 (内服、外用、注射)
3	電子カルテシステム B社	医薬品マスタ	A病院	処方・注射オーダー	1,800品目 (内服、外用、注射)
4	輸血管理システム B社	輸血マスタ	A病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輸血パックの2次元バーコード(日赤)</li> <li>・【new】輸血パックの2次元バーコード(NDD)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GS1が使用されているのは左記の2点</li> <li>・マスタには使用していません。</li> <li>・バーコードの規格は「TBCCHKM」というマスターで制御しているが、特殊なバーコード(GS1の2次元等)についてはプログラムで対応している</li> </ul>
5	輸血管理システム C社	輸血マスタ	A病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスタ名称：商品マスタ</li> <li>・項目名称：JANコード、販売包装単位コード、調剤包装単位コード</li> </ul>	-

6	薬剤部門システム 社	D 薬剤部門マスタ	A病院	調剤支援、服薬指導、麻薬管理	-
7	注射支援システム E社	注射部門マスタ	A病院	注射剤取り揃え	・薬品マスタにGS1コードを登録する項目はある。 2019/7/30ではこのGS1コードを登録する項目には何も入れていない。 薬品照合や帳票等ではGS1コードを使用していない。
8	電子カルテシステム F社	各種オーダーマスタ（処方、注射、画像、検査、汎用、手術）	B病院	処方・注射オーダー、処置実施入力、検査等実施入力、手術実施入力	医薬品：約24,000品目 医療材料：約25,000品目
9	医療事務システム F社	点数マスタ	B病院	会計計算、保険請求	医薬品：約31,000品目 医療材料：約17,000品目
10	物流管理システム F社	品目マスタ(医療材料・医薬品・試薬・ガスなど)	B病院	請求・払出・発注・納品	医療材料：約35,000品目 医薬品：約7,000品目 検査試薬：約2,800品目
11	調剤支援システム G社	医薬品マスタ	B病院	払出・照合作業	医薬品：約7,000品目
12	手術管理システム H社	材料マスタ	B病院	手術予定・術式マスタ(患者別消費実績)	医療材料：約35,000品目
13	物流管理システム I社	医療材料 一般消耗品マスタ	C病院	入札・発注・納品・供給・棚卸	約20,000品目
14	電子カルテシステム I社	医薬品マスタ	C病院	入札・発注・納品・供給・棚卸	約7,000品目

15	血液浄化療法業務システム J社	透析マスタ	C病院	透析関連業務	-	
16	滅菌システム K社	滅菌物関連マスタ	C病院	電子カルテ連携 薬局機器等制御	-	
17	電子カルテシステム I社	注射薬マスタ 処方薬マスタ 処置薬マスタ	C病院	処方・注射・処置オーダ実施	処方：4,703品目 注射：993品目	
18	輸血検査システム I社	輸血マスタ	C病院	輸血オーダ、実施、ロット管理	-	
19	手術部門システム I社	手術関連薬品マスタ 手術関連医療器材マスタ	C病院	手術実施	-	
20	薬剤部門システム D社	処方薬マスタ 注射薬マスタ	C病院	処方・注射オーダ 処方解析・処方箋出力 各機器制御	電子カルテ 薬品マスタとほ ぼ同数	
21	薬剤部門システム D社	処方薬マスタ 注射薬マスタ	C病院	調剤支援システム	電子カルテ 薬品マスタとほ ぼ同数	
22	JITSシステム F社	診療材料類マスタ	D病院	バーコード IDカード、商品ラベル：CODE128 医事シール：NW-7	61,780件	※PFI事業者分診材、薬品
23	薬品管理システム L社	採用品マスタ (薬品のみ)	D病院	GS-1(GTIN)、GS1-128、JAN NW7(商品コード(ローカル))	4,433件	※PFI事業者分診材、薬品
24	検体検査システム M社	検査項目マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
25	検体検査システム M社	材料マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
26	検体検査システム M社	容器マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分

27	検体検査システム M社	コード変換マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
28	細菌検査システム M社	検査項目マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
29	細菌検査システム M社	目的菌マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
30	細菌検査システム M社	材料マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
31	細菌検査システム M社	診療科マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
32	細菌検査システム M社	病棟マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
33	細菌検査システム M社	医師マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
34	細菌検査システム M社	基礎疾患マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
35	細菌検査システム M社	感染症マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
36	細菌検査システム M社	感染症マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
37	細菌検査システム M社	部位マスタ	D病院	ラベル発行	-	※部門システム分
38	統合画像情報システム N社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
39	統合画像情報システム O社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分

40	文書管理システム P社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
41	病理検査システム Q社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
42	栄養管理システム R社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
43	看護部門管理システム S社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
44	透析通信システム J社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
45	診察待表示システム I社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
46	調剤支援システム G社	薬品マスタ	D病院	処方・注射オーダー		※部門システム分
47	内視鏡部門システム T社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
48	機能検査ファイリングシステム/脳波解析システム U社	-	D病院	-	対象無し	※部門システム分
49	電子カルテシステム B社	医薬品マスタ	E病院	処方オーダー、注射オーダー	-	
50	電子カルテシステム B社	材料マスタ	E病院	実施オーダー	-	
51	電子カルテシステム B社	試薬マスタ	E病院	検査オーダー	-	
52	電子カルテシステム I社	注射マスタ	F病院	注射オーダー	2,067 1,280（採用終了等を除く）	

53	電子カルテシステム I社	処方マスタ	F病院	処方オーダ	6,075 3,791 (採用終了等を除く)
54	電子カルテシステム I社	処置材料マスタ	F病院	処置オーダの実施入力	18,439 18,373 (採用終了等を除く)
55	電子カルテシステム I社	製剤マスタ	F病院	輸血オーダ	150
56	物流管理システム V社	物品マスタ	F病院	医療材料の患者への使用実績の電子カルテ記録および医事システム連携	18,367
57	薬剤物流システム W社	物品マスタ	F病院	薬剤の購入・払い出し業務等	6,103 2,138 (採用終了等を除く)